

H27 試験研究課題評価一覧（概要）

| 部会 | 評価区分 | 試験研究課題名 | 部会評価 | 外部評価 | 試験期間 | 対応方向 |
|------|------|--|------|------|--------|---|
| 農産部会 | 事前 | 飼料用米「やまだわら」の安定多収技術の確立 | B | A | H28～30 | <ul style="list-style-type: none"> ・「やまだわら」の本県における栽培特性を明らかにし、効率的な肥培管理技術を確立する。また、直播による安定多収技術の確立に取り組む。 ・現場での他作物に対する病害虫等の影響については、広域普及指導センター等と連携して対応していく。 |
| | 事前 | 水稻の全量基肥用肥料の検証と改良 | A | A | H28～29 | <ul style="list-style-type: none"> ・本課題を最優先に位置付け、調査内容の効率化、早期のデータ解析等により、目標達成を目指す。 ・平成 29 年度にリリース予定の新品種については、全量基肥体系の確立に向け研究を実施中である。 |
| | 事後 | 県育成有色素コシヒカリを活用したアミロース含量の異なる新品種開発試験 | A | A | H22～26 | <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携を取りながら認知度の向上や生産拡大を図っていく。 ・一般食用米へのコンタミ対応については、地域の限定やブロックローテーションの導入、除草剤の使い方などを普及機関とともに指導していく。 |
| 園芸部会 | 事前 | 1億円品目を核とした耕地の高度利用のための技術開発 | A | A | H28～30 | 品目、品種、作型の選定から関係機関と連携し、主穀作との栽培体系を含めた評価を行い、有効性の高い体系化を目指して取り組む。 |
| | 事前 | 果樹のジョイント栽培による早期成園化・超省力栽培技術の確立 | A | A | H28～32 | 公開技術をベースにしながら雪害など、本県独自技術として開発に取り組む。 |
| | 事後 | 東北・北陸地域における新作型開発によるタマネギの端境期生産体系の確立 | A | A | H24～26 | 関係機関と連携し、普及定着に努めるとともに、さらに技術のブラッシュアップを図っていく。 |
| 畜産部会 | 事前 | 乳用子牛に優しい新たな哺育管理技術の開発 ～乳用子牛における第一胃環境形成と成熟時乳生産性との関連性解明～ | A | A | H28～31 | 森林資源由来の新規飼料の嗜好性や安全性などに考慮しつつ研究を進める。コストにも配慮した成果を示すとともに、具体的な活用方法についても提示する。 |
| | 事前 | 和牛の生産性向上のための分娩間隔短縮技術の確立 | A | A | H28～30 | 労働低減の観点から、手間を掛けずに生殖器の回復を促進する技術や発情を発見しやすくする技術について検討する。 |
| | 事前 | 豚の簡易ストレス測定方法の確立および改善対策の検討 | A | A | H28～30 | 豚の飼養状態を客観的な数値で捉え、効果的な飼養改善につなげるための各種 IT 技術の利用について検討する。 |
| | 事後 | 肉用牛への大麦わらサイレージ調製給与技術の開発 | A | A | H24～26 | 本研究で得られた成果を現場に普及させるため、肉用牛への長期間給与による効果について検討し、実用化技術として発展させる。 |
| | 事後 | 畜産臭気および排水処理に関する環境改善技術の開発 | A | A | H23～26 | 本研究で得られた成果について、畜産環境改善指導のための情報として活用するとともに、実用化に向けた検討についても行う。 |

| 部会 | 評価区分 | 試験研究課題名 | 部会評価 | 外部評価 | 試験期間 | 対応方向 |
|--------|------|------------------------------------|------|------|--------|--|
| 食品加工部会 | 事前 | とやま酵母を使用した新しいタイプの清酒の開発 | A | A | H28～30 | 酒造組合や各企業から早急な製品化を望まれている。実施に当たっては、業界との連携を十分にとり、具体的な製品開発に向けて効率的に研究を推進する。 |
| | 事前 | 県内栽培薬用作物の食品への利用技術の開発 | A | A | H28～30 | 県内食品業界からは、県産の素材を利用した製品開発の要望が強いことから、業界へ積極的に情報提供を行いつつ、業界と連携して研究開発を行っていく。 |
| | 事後 | センサー利用による特産食品の賞味期限設定技術の開発 | A | A | H23～26 | 本開発技術を応用した賞味期限の設定にあたっては、製造業者への技術指導、依頼分析等による商品ごとの個別対応により、実用化を進める。 |
| 林業部会 | 事前 | 蒸煮竹材を活用した高靱性木質素材の開発 | C | B | H28～30 | 注目される研究であるので、材料の調達やコスト面などに幅広く目を配り研究を進める。 |
| | 事前 | スギ樹皮からの有用成分の抽出と燃料化技術の開発 | B | B | H28～30 | 価格面では厳しい（樹皮の廃棄物処理費用を考慮すれば大差はないが）ことから、付加価値の高い有用成分の抽出に努める。 |
| | 事後 | スギ過密人工林を長伐期林へ誘導するための施業法の確立 | A | A | H24～26 | 森林研究所の長年にわたる研究の成果であり、林業普及指導員と連携して森林組合や森林所有者に働きかけることとする。 |
| | 事後 | 根粒菌フランキアを活用した富山県産ハンノキ属緑化木の短期育苗法の確立 | A | A | H24～26 | 生産者の確保や需給調整については、関係部署と調整する。森林研究所では追跡調査やコスト調査などの要望があれば対応する。また、菌散布苗の育苗に関する技術指導に応じることとする。 |
| 水産部会 | 事前 | 沿岸定着性魚類の種苗生産安定化技術開発 | A | A | H28～32 | キジハタ：生産コストの削減方策の検討とともに、標識魚再捕調査及び漁獲実態調査に取り組んでまいりたい。 アカムツ：生産魚からの親魚養成や、種苗生産技術の研究の過程で、基礎的知見の蓄積に努めて参りたい。また、天然魚の生態等の把握のための情報収集にも努めたい。 |
| | 中間 | 資源管理効果モニタリング調査(シロエビ) | A | A | H20～ | 蓄積されたデータ等を活用して漁獲量の変動要因などを明らかにし、管理方策の提案として資源評価（レベルと動向）が実施できるよう取り組んでまいりたい。 また、系群判別（評価）に向け、他地域での漁獲などの情報を収集したい。 |

評価の区分

- (1) 事前評価：新規に実施しようとする課題について、必要性や貢献可能性、研究内容が適切であるか等について予算要求前に評価を行う。
- (2) 中間評価：原則として5年以上の期間にわたる課題について、原則として開始後3年目毎に試験研究の進捗状況、社会情勢の変化等を踏まえ、研究内容が適切であるか等について評価を行う。
- (3) 事後評価：試験研究が終了した課題について、原則として終了年度にその研究成果について評価を行う。
- (4) 追跡評価：試験研究が終了した課題について、終了後数年後にその研究成果の普及状況や貢献度について評価を行う。

部会・外部委員会評価における評価基準

| | 事前評価 | 中間評価 | 事後評価 | 追跡評価 | |
|---|-----------|-----------|-------------------|------|-----------|
| A | 優れている | 優れている | 優れた成果が得られた | a | 貢献度は高い |
| B | 妥当 | 妥当 | 良好な成果が得られた | b | 貢献度は妥当 |
| C | 部分的見直しが必要 | 部分的見直しが必要 | 予定された成果にはやや至らなかった | c | 貢献度はやや低い |
| D | 全面的見直しが必要 | 全面的見直しが必要 | それほどの成果が得られなかった | d | 貢献度は低い |
| E | 実施せず | 中止 | 成果が得られなかった | e | 貢献度は非常に低い |